



✿地域とともにある学校づくりをめざして✿

尼崎市コミュニティ・スクール通信

HAPPY HAPPY

第9号



コミュニティ・スクールの力が 最大限発揮された事例

平成28年4月14日、熊本県熊本地方を震源とする地震が発生しました。特に益城町では、震度7を記録し、大きな被害がありました。小・中学校は、避難所として指定されていましたが、高校にも多くの避難者が押し寄せてくるほどの大規模災害でした。



熊本地震が発生



益城町役場自体も被災し、小・中学校が避難所となりました。

その結果、多くの人々が避難所に押し寄せ、避難所の運営が学校に委ねられました。



益城町で唯一コミュニティ・スクールが設置されていた 益城中央小学校では地域の方が大活躍！

<p>避難所に来た住民の名簿作成や支援物資の受け取り、配給などを教職員が行うことになったため、子どもたちに寄り添う時間が取れなくなりました。</p>	<p>課題</p>	<p>車を停めて寝泊りする人が増えたため、学校の運動場も駐車場として開放するよう要請がありました。</p>
<p>「教職員の仕事は避難所の運営ではなく、子どもたちの不安の解消ではないでしょうか。」という結論になりました。</p>	<p>学校運営協議会では・・・</p>	<p>「子どもたちのストレスを解消するためには、学校が再開したらすぐに運動場を使って体育の授業ができるように、予め運動場は確保しておこう！」という結論になりました。</p>
<p>協議会メンバーが前面に立って避難所の運営を行うことになり、教職員は子どもたちの言葉に耳を傾け心のケアに努めることができました。</p>	<p>結果</p>	<p>協議会の会長がアナウンスをしたおかげで、地域の理解を得ることができ、学校再開後、すぐに子どもたちの元気な声が聞こえるようになりました。</p>

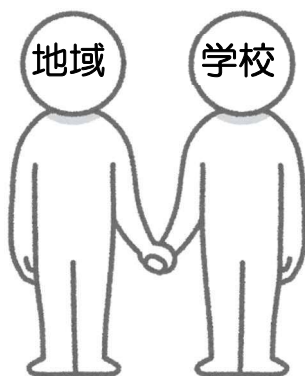


なぜこのようなことが可能になったのか

普段から地域と学校が学校運営協議会で、

- ① 地域と学校が共に「意思決定」をできる関係づくりをしている
- ② 「目標を共有」しているので、適切な「役割分担」ができています
- ③ 協議により決定したことを、「協働」による活動に結びつけている

一緒に
意思決定



協働による
活動

適切な
役割分担

そして、なにより子どもたちの教育の「当事者」として、自分たちは何ができるのかを
探し続ける地域の人々の姿があったこと

(未来の学校づくりーコミュニティ・スクール導入で「地域とともにある学校」へー
木村直人 相田康弘 共著 2019 学事出版より)

尼崎市では、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を市立小学校に導入し、「学校運営の改善」や子どもたちの学びを充実させるための取組を進めています。現在はモデル校を8校設置し、地域と学校で思いを一つにし、「子どもたちのために何ができるか」、「どのように地域と連携・協働して行けばいいか」を模索しながら「地域とともにある学校」を目指しています。

今後は、学校がコミュニティ・スクールを導入して良かったことや困ったことなど、効果や課題を検証しながらより良い制度へと整え、地域や学校の特色を活かして取り組んでいきたいと思えます。

そして、子どもたちには、地域の方々に見守られ、支えてもらっていることを知ってもらい、自分たちの地域が心地よい場所となり、好きになってほしいと願っています。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは？

- 学校運営協議会を設置している学校のことです。
- 学校運営協議会は、地域・保護者・学校が学校運営の基本方針や子ども達に必要な支援等について「話し合い、考える場」です。
- 地域・保護者・学校が目標を共有し、子どもたちの教育活動の充実をめざして「地域とともにある学校づくり」を進めます。

令和3年12月10日発行

発行：尼崎市教育委員会 社会教育課 地域学校連携推進担当 TEL 06-4950-0405 FAX 06-4950-5658